

にさせた、前時までは、100mを30秒くらいの速さで固定走しておぼえさせるようにし、本時は個人走として、200mごとのタイムを知らせた（5秒くぎりで速い者おそい者に知らせた）。

イ. とびこみ前転ではじょうずな者をみさせるとき、どこをみたらよいかをはっきりとさせて選ばせた、比較的へたな者には、手のつき方がよかったとか、ふみきりの調子がよいとか、賞賛するように心がけた。

ウ. 児童がこの時限にとびこみ前転がじょうずになるため、自分はどんなところを練習したらよいかということを友だちどうしの試技をみることによって、かなり適確につかめさせられたようであった。そのために熱心に練習が行なえたと思われた。

エ. この組の児童が現在の力で次の段階へ進むとすれば、どの程度のものを求めたらよいのか、指導の段階を実態にもとづいて、みとおしていくむずかしさがわかった。

オ. 勝敗もなく、自分の技能が向上したことも児童自身にわからないので、最後の練習に、自分で、できるだけ力、能力をだしてじょうずにとぶように話し満足感を幾らかでももたせるように心がけた。

比較的女子がへただから指導の時間を多くするようにし、男子は互にみて注意や忠告をさせるようにさせた。マットとふみきりの距離を各自にくふうさせた。

カ. とび箱、マットなど使用するときは、ずれたりうごいたりしたのをなおすように心がけさせ、手のひらをむけて、とまれの合図をしたら次の順番の者はとばない約束ができています。

この合図で、とめたり、とまらせたりすることが、かなりおもしろらしく時々やっている、ただしふざけてとめることのない

よう厳重にしているのが今までにもなかったし、本時もふざけることは少なかった。

3 漸進的に運動を喜めていくために

ア. 持久走の前、準備として、徒手体操、か
るく走ることを入れてみた

イ. どのくらい疲れるのかしらべようとして、持久走直後各自みゃくはくを調べさせてみたが、急に運動を停止する結果になり身体的に悪影響があったのではないかと心配したことは失敗だった。

4 個人の体力を考慮していく

ア. 特に健康しらはしなかったが、からだのことについては毎朝申出させている。本時は休む者がなかった。

イ. 持久走の後、とびこみ前転の準備をする様子は少し疲れているようにみうけられた、話し合いの時に、手を上げさせてきいたら、うごくのがいやだという者4～5名もっと走りたい者男子5～6名いた。

ウ. とびこみ前転の練習中（7～8回練習した後と思われる）めまいがするようだという児童が2名いたが休ませた。めまいや体調の悪いのを見抜くことは大切なことであるがむずかしい。本時の児童は、日頃マット運動に弱いので顔色をみてやめさせることにした（岡本、小林民）教師が故障のある児童をみつけだして、児童の取扱いを考えてやらなければならないが、高学年の目標でもある、自分の身体の様子を日頃から知るようにしむけることがなお必要であると思われた。

エ. 個人差は、体力や技能の面ではっきり出てきているが能力別にしないで男女別で男子3グループ女子2グループとし力が平均されられると思われるようにわけ指導した。これはサッカーなどのチームにもなっている。練習回数の少ないグループもあったし